

臍が茶をわかす。

臍が笑。オヘソが笑とも云又ヘソが四竹を打とも云、鶉衣後編臍頌我朝に人を嘲りては臍が笑ふともいへりけり、

〔和合人 初編上〕延壽丹の主人世界の人情を悟癖を集口取となし、ひんじすわれ拔俗ひんじすわれて浮世のあなを臍の下にほりお茶をわかして世の中に腹を抱させ絶倒を止て筆をとらず、しばらく病の愈を待已略下

〔名物六帖 人事四〕噴飯フキダシ山家清供文與可守臨川忽得東坡詩云想像清貧饒太性行笑啼性行笑啼守渭川千畝在胸中不覺噴飯滿案想作此供也略○下略

〔類聚名義抄二〕微咲ホ、エ、ム 覈窠同

〔遊仙窟〕余即詠曰、微咲偷殘微咲者、微精神而咲也略○中略 十娘略 含嬌窈窕迎前出ホ、エ、ム忍笑嫵媚返却迴、

〔和字正濫抄三〕斂咲 ほゝゑむ 又忍咲共遊仙窟これもゑまゝほしきをしのびてわづかにゑめば、含咲といふなり、又頰のみすこし咲をあらはす故にも有べし、

〔枕草子七〕うへ條一此わたりに見えしにこそはいとよくにためれと、うちほゝえませ給ひて、

〔源氏物語 藤裏葉三十三〕この花の略○中いろもはたなつかしきゆかりにもしつべしとて、うちほゝゑみたまへる、けしき有て、匂ひきよげなり、

〔源氏物語 帚木二〕きみすこしかたゑみで、ざることはおぼすべかめり、いづかたにつけても、人わろくほしたなかりける御ものがたりかなとて、うちわらひおはさうす、

〔瑤囊抄三〕少シエムヲ、ホクソワライト云ハ何事ゾ、

北叟ガ笑ヲホクソウ咲ト云成セル也、喩ヘバ昔唐世ニ一ノ老翁アリ、王城ノ北ニ居スル故ニ是ヲ北叟ト云、塞翁ガ事ナルベシ、此翁ハ世間無常ヲ觀ジテ、君ニ仕テ名利ヲ貪ル心モナク、私ヲ顧テ財寶ヲ貯ル思モナシ、可歎事ニモ少シ笑ヒ、可喜事ニモ少シ咲フ、是悦モ憂ヘモ皆不久、萬事皆夢ナル理ヲ能知テ、一切ノ事ニ少シワラフ也、是ヲ俗語ニホクソウワライト云ナルベシ、